

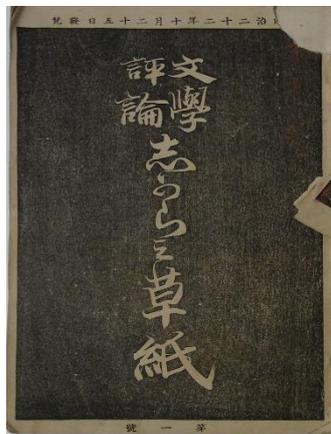
森鷗外とドイツ美術と『うたかたの記』の世界



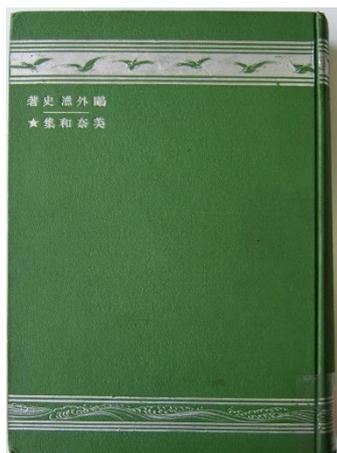
森林太郎（森鷗外） 出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/342/>)

森鷗外がドイツ留学中、頻繁に美術館に通い、ヨーロッパの名画に心奪われ、さらに多くの画家たちとも交際していたことは、実はあまり知られていません。

今回は、南ドイツの文化都市・ミュンヘンに滞在していた頃の鷗外に焦点を当て、彼の芸術体験との関連で、当地を舞台にした小説『うたかたの記』を読み解いて行きましょう。



鷗外主宰雑誌『しがらみ草紙』明治二十二年〜二十七年
明治二十三年八月の本誌に『うたかたの記』掲載



鷗外『美奈和集（水沫集）』明治二十五年
『うたかたの記』収録

講師: **美留町 義雄氏**

(大東文化大学 文学部教授)

日時: 11月5日(土) 午後 2 時～4 時

会場: 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

対象: 区内在住・在勤・在学の方

定員: 20名(応募者多数の場合は抽選となります。)

締切: 10月16日(当日消印有効)

申込: 往復ハガキに必要事項を記入し、郷土博物館・文学館までお申し込みください。

往信面…「文学講演会 森鷗外」、申込者(2名まで)
の住所・氏名・電話番号

返信面…代表者の住所・氏名

問い合わせ先

〒150-0011 渋谷区東 4 丁目9-1

白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

電話 03-3486-2791

F A X 03-3486-2793



白根記念
渋谷区郷土博物館・文学館
SHIBUYA FOLK AND LITERARY SHIRANE MEMORIAL MUSEUM

[公益財団法人 渋谷区文化・芸術振興財団]